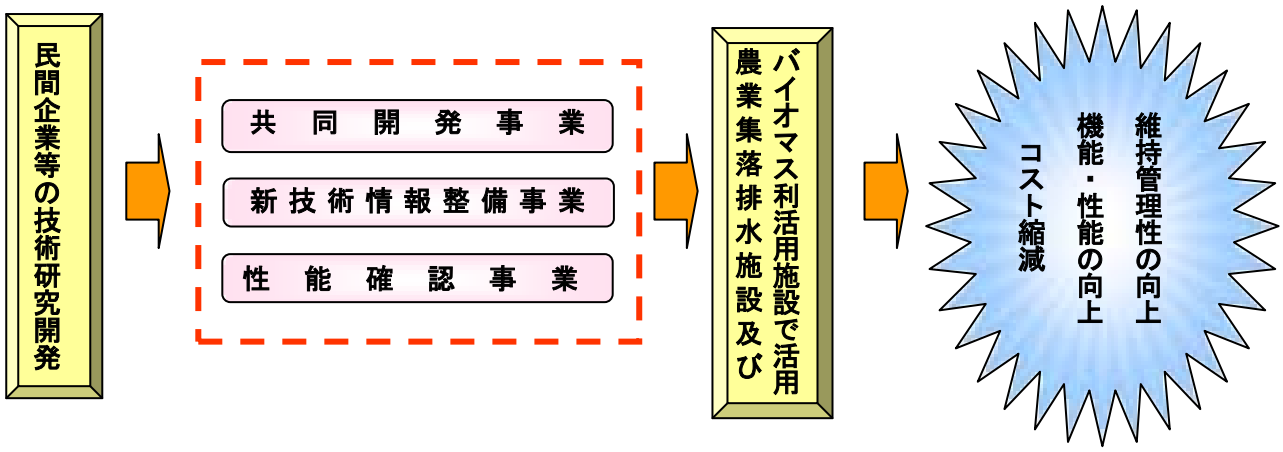
新技術提案制度

（民間企業等が開発した新技術の円滑な導入への支援）

新技術提案制度は、民間企業等において近年開発された、又は開発されつつある農業集落排水技術（管路技術を含む。）やバイオマス利活用技術のうち、有用なものを的確に導入・普及させ、農業集落排水事業等の効率的・効果的な推進を図ることを目的としています。



■共同開発事業

標準化･一般化することが適当な新技術について、実験プラントや実設備において実証実験を行い、設計手法等の確立を図ります。

共同開発事業は当センターと民間企業等が共同開発を行うものであり、実証試験を行ってその有効性を確認するとともに、設計指針や技術資料等を取りまとめることにより、開発した新技術の導入を容易にします。なお、開発テーマによっては、技術開発に要する経費の 50%を国が補助する「官民連携新技術研究開発事業」（農林水産省農村振興局所管）の活用も可能です。

【取組事例】

○ **汚泥量調整機構（H18 年度に汚泥量調整機構技術資料（案）の改訂版を発刊）**

返送汚泥量のごく一部を処理して生分解性を高め、ばっ気槽に返送して酸化分解することによって、発生する汚泥量を肥料化施設等汚泥受入側の状況に応じて調整します。現在 6 方式の汚泥量調整機構が共同開発されております。

■新技術情報整備事業

既に一部の地区で実用化されている新技術のうち、標準化･一般化により普及させることが適当なものについて、性能等を確認しつつ、設計、積算等に必要な技術資料を整備します。

作成された設計、積算等に係る技術資料は、事業主体やコンサルタント等の担当者が設計や積算を行う場合に利用できます。

【取組事例】

○ **急傾斜排水管路システム　（H16 年に技術資料を発刊）**

急傾斜地において、地表面に沿って管路施設を布設する管路システムで、従来の段差接合の場合と比較し、マンホール設置数の削減、管の浅埋設、管路延長の短縮などの特徴があります。

○ **アーバンノーディッグ工法（H16 年に技術資料を発刊）**

非開削で小口径管を布設する工法で、従来の開削工法と比較し、施工スピードが速く、仮設費を削減でき、横断構造物、地下埋設物等を迂回して施工できるなどの特徴があります。

○ **リブ付硬質塩化ビニル管を使用した曲管システム（H18 年に技術資料を発刊）**

管路の屈曲点において、リブ付硬質塩化ビニル管を使用する管路システムで、マンホール設置数の削減などの特徴があります。

■性能確認事業

既に実用化されている新技術のうち、標準化･一般化することが困難なものについて、施設、装置等の性能等を確認し、その結果（性能確認資料）を取りまとめ公表します。

性能確認事業の成果は、性能発注方式等における提案技術（プロポーザル）の性能照査等において活用ができます。

【取組事例】

○　汚泥資源循環利用に関する技術の性能確認（H14 年度から受付中、21 件の実績あり。）

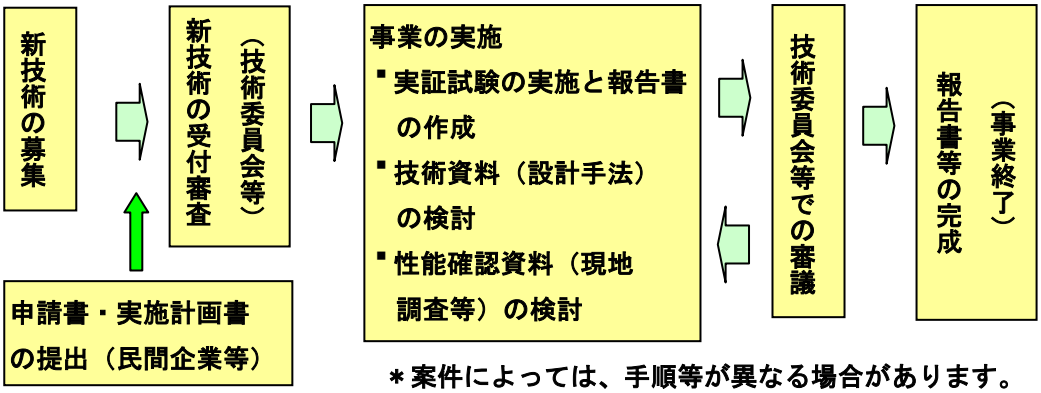
○　メタン発酵技術に関する性能確認（H16 年度から受付中、4 件の実績あり。）

■各事業の実施内容

	共同開発事業	新技術情報整備事業	性能確認事業
実験プラント又は実施設における実証試験による確認	◎	―	―
設計手法等の検討と確立	◎	◎	―
性能等の確認（現地調査等）	◎	◎	◎
成　果　品	実証試験報告書及び技術資料	技術資料	性能確認資料

■事業実施の流れ

公正かつ厳格に確認・評価するため、学識経験者等で構成された技術委員会にて受付審査を行い、承認された新技術について事業を実施します。



＊案件によっては、手順等が異なる場合があります。

■応募方法

提案を随時受け付ける方法と、特定テーマを定めた上で公募により受け付ける方法とがあります。

なお、特定テーマによる公募を行う場合は、当センターの季刊誌、ホームページ及び JARUS メール等でお知らせします。なお、対象の民間企業は、当センターの賛助員に限ります。

①費用負担

要する経費は原則として応募者である民間企業等が負担するものとします。

②問い合わせ先

応募、本件内容等については、下欄の担当者までお気軽にお問い合わせください。

～頼れる集排・バイオマス技術のパートナー～

一般社団法人　地域環境資源センター

〒105－0004　東京都港区新橋五丁目 34 番 4 号　農業土木会館内

＜農業集落排水施設(汚水処理施設)＞

事業推進本部　技術監

佐藤　進　（E-mail：s.sato@jarus.or.jp／TEL： 03-3432-6284／FAX： 03-3432-0743）

＜農業集落排水施設(管路施設)＞

集落排水部 上席研究員

品田　司（E-mail：t.shinada@jarus.or.jp／TEL： 03-3432-6289／FAX： 03-3432-0743）

＜バイオマス利活用施設＞

バイオマス技術部 バイオマスチームリーダー

岡庭 良安（E-mail：y.okaniwa@jarus.or.jp／TEL： 03-3432-6285／FAX： 03-3432-0743）

JARUS
Think Globally, Act Locally.